

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 17 No 1

186号

平成21年 1月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

あけまして
おめでとうございます



今年もよろしくお願いします

院長・スタッフ一同

新しい歳に向けて -2009-

院長

毎年恒例ですが、新しい年に向けてと題して昨年を振り返ってみます。

去年は経験したことのない、初めての出来事が後半に集中して、悲しく辛い思いをした年でした。

11月中旬に、4歳の女の子がズボンが濡れるほどのおりものを主訴に来院。どこことなく、大人しい子という印象。診察したところ、膣の中からも黄色いおりものが流れているという状態。大腸菌の感染かと思い、培養検査に提出し抗生物質を処方し帰宅。数日後検査センターから結果の電話が。事務員が受けたが、直接先生に結果を伝えたいとのこと。忙しいのになと思いながら電話に。“何度も検査したのですが、間違いなく淋菌です”と。昨年も虐待の話を書きましたが、淋菌がでた場合のほとんどは性的虐待とのこと。紹介先の病院から事実が証明されなかったが性的虐待に間違いのないとのこと。トラウマなのか、大人しい子どもの姿が、本当にかわいそうな事件でした。

12月9日、かかりつけの患者さんから悲しい報告が。兄妹ふたりで仲良くかかっていた妹さんのこと。カゼ気味で薬を処方、とくに変わりなく経過。スタッフが電話を受け、1歳1ヶ月の妹さんが亡くなられたというもの。すぐさま、お母さんに電話を。詳細は、12月5日はいつもと変わらず家族そろって夕食をとり、普通に寝ついた。2:00頃の母乳も変わりなし。4:00頃に布団から出ていた足の冷たさに気付く。布団を掛け直そうと思ったところで、全身が冷たくなっていて慌てて救急車を。病院に搬送後、死亡確認。病气や窒息などの所見も無く、原因不明。乳幼児突然死症候群(SIDS)と診断。電話でお母さんには、“SIDSは原因もわからず、防ぎようのない病气であること。もっと早く気がついたら等、自分を責めないこと。”等を、時間をかけて説明。突然わが子を失った親の心は複雑で、その心の穴を埋めることは不可能。翌日、そんなお母さんから、思いのこもった出せなくなった年賀状(写真入り)を頂く。“平成20年11月6日明け方に〇〇〇は天に召されました。突然のことで、今家族は事実を受け止めてこれからどうするかこのころの整理をやっと始めているところです。(略)かわむら

先生、おいそがしい中わざわざ電話をくださってありがとうございました。今の私の苦悩を少しでも理解して下さる方がいるだけでとても救われる思いです。(略)そして〇〇〇が、お腹の中にいる時から気づかって下さったスタッフの方々、先生、どうかずっと〇〇〇を忘れないでいてあげて下さい。”スタッフ一同、皆うるうるでした。思いのこもった年賀状に示された、本当に悲しい出来事でした。

そんな思いもさめやらぬ12月11日朝9:30、看護婦の先生という大きな声でまたしても思いもよらぬ事態へ。処置室に駆けつけてみると、バスタオルで全身をくるまれた赤ちゃんらしき患者さんが。お母さんと思われる若い女性が、震えながら受診。おもむろにバスタオルを外してみると、中には産まれたばかりの赤ちゃんが口と鼻から出血しているが冷たい姿で。心肺停止の状態、全身チアノーゼ。よく観察してみると、死後硬直も。長年新生児医療に携わっていて死亡に数多く立ちあったが、まさかクリニックで立ちあうとは。経験が幸いしてか、慌てずにまず警察に連絡。若いお母さんには、ずっと看護婦がフォローを。警察が来て、診療は1時間以上もストップ。事情を聞くと、12月7日夜に、19歳の専門学校に通う未婚の女性が、ひとりでアパートの浴室で出産。赤ちゃんをシャワーでキレイにし、へその緒も自分で切断。産まれた時泣いたが、母親は出血で具合が悪化。友人の差し入れのミルクや母乳を。彼は2日目に来て、赤ちゃんを見ただけ。次第に赤ちゃんは泣かなくなり、前日には冷たくなり動かなくなつて。朝鼻と口から出血、抱っこして来院。自宅で産んだ最大の理由は、“知られたくなかった”とこと。妊婦の救急車のたらい回しが問題になりましたが、このケースは別な意味で大きな問題です。人の命が、このようなことで失われるなんて、本当に残念で仕方ありません。若い母親一人を責めるつもりはありません。しかし、どうして、救急車を依頼しなかったのか不思議で仕方ありません。本人が呼ばなくても、友人や彼氏が対応できたはず。親に話していたら、こんな悲劇は生まれなかったかもしれません。後で聞いた話では、厳格な父親だということでした。知られたくなかったという思いは、自分のためです。自分の思いのために、子どもを犠牲にすることなどは許されるものではありません。このような事態には、希薄になった家族関係や人間関係など、社会としての問題も潜んでいるかもしれません。二度とこのようなことが起きないように、我々大人として、また医師として考えていきたいと思いました。その後警察で詳しい事情とともに犯罪の立件について聞きました。幸い、保護責任者遺棄致死等の罪状ではなく、病死という扱いとのことでした。ひとりに罪をかぶせるのではなく、若い母親を考えた判断で警察の温情を感じました。人の命の重さを考えさせる、本当にやり切れない辛い出来事でした。

新年早々悲しく辛い話題で申し訳ありません。経済状況も暗い話題で持ちきりです。来年は楽しいことだけ書けば済むような、明るい一年になることを願っています。最後に亡くなられた子ども達のご冥福を祈りたいと思います。

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』

あけまして おめでとう ございます

昨年は仕事面で今までにない経験をし、人はいろいろな思いをして子育てをしている。という事を改めて感じさせられた一年でした。今年はお母さん達の心配や不安が少しでも、解決できる手助けがしたいと思います。

婦長 中米 由美子

昨年は、いろいろな方々の力を借りて第二子を無事出産することができました。今年も人と人との繋がりを大切にしたいと思っています。

看護師 佐藤 陽子

あけましておめでとうございます
今年も、一日一日を大切に、そして前向きに！過ごしていきたいと思っています。

事務 道端ちひろ

2009 年は、とうとう前厄の年となってしまいました…。何事にもよ〜く考えながら行動して行きたいと思っています！でも、新しい事にもどんどんチャレンジして自分の違う一面を見つけれたら良いなと思っています。

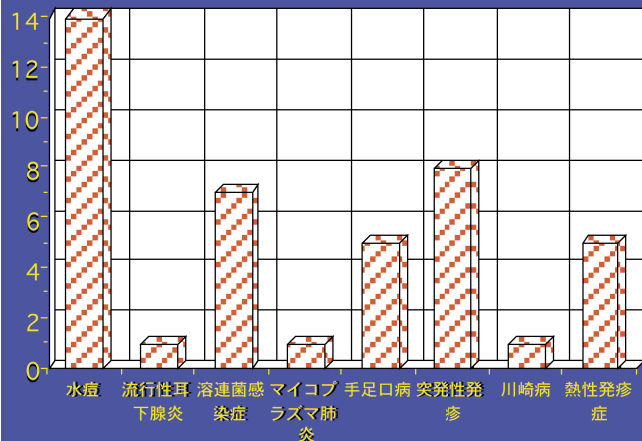
事務 福地 あさか

読者の広場

先月は 28 通のメールを頂きました。12 月に開催された『お母さんクラブ』のクリスマス会では、始まる前に亡くなった子ども達の話をし、黙とうを捧げました。参加した青葉区の千葉さんからのメールです。「いつもお世話になってます、千葉心結の母です。今日もお世話になりました。昨日のクリスマス会に参加して、メールを送りたくなってしまいました（お忙しい時期にすみません）。今回 3 回目でしたが、今までとは違う感慨深いクリスマス会でした。楽しいことだけでなく、悲しい現実のお話、先輩お母さんの心温まる歌、本当に深いクリスマス会でした！先輩お母さんの歌は、自分と重ねてしまい、感極まっています。なのでところどころの歌詞は覚えていませんが。1才6ヶ月の健診で不正咬合を指摘され「永久歯が生え揃ったら矯正が必要になるかも」と言われ、ショックで先生に相談した時「まだ顎もしっかりできていないうちに、どうなるかわからないそんな先の事考える必要はない！もしそういう時がきたら一緒に考えていこう！とにかく健診で言われたことは全部忘れていいから！！」とおっしゃって下さいました。張り詰めてたものがほどけたのを覚えています。今年の3才7ヶ月健診では、最後の保健師さんと話すまですっかり忘れていました。そして、母子手帳にもく不正咬合なし、心配ないと言われました。厳しい言葉(!?)をいただいた事もありますが、あとになると母としての自信をつけていただいたり、温かい言葉をいただいたり、涙をこらえることも何度か…かわむらこどもクリニックに通って幸せだなあと痛感しました。先生、スタッフの皆さんとお話できるだけで安心できます！うまくまとめられず長々と書いてしまいすみません。これから末長くよろしくお願いします。」。多くの人は、健康であることの大切さ、命の大切さ、そして普通であることの大切さに気付いていません。今回のことが、その気付きのきっかけとなれば、亡くなった子ども達のためにもなると思います。次はプライバシーに関わる内容なので匿名で紹介します。「先生こんばんは。先日は大変お世話になりました。我が家また先生に助けて頂きました。かわむら先生とお話した翌日、幼稚園の先生方と面談をしました。先生方からもやはり、小児専門医へいった方がいいと言われました。そして「アーチルへ園が〇〇君にどのように対応したらよいかもう一度聞いてくれないか？」と言われたのでアーチルへ電話しました。すると…「今のままで特に何もする事はないです。」とあっさり。私が「あの、でもこのまま入学まで何もなくていいんですか？」と言うと「お母さん何がしたいの？」と逆に質問されました。私は半年間このままでは不安である為、専門医に見てもらふ事を検討している事を話しました。すると、「この診断は病気と違ってナイーブなモノ。小児科医にいつても結果は同じだと思います。それにもし行くなら1つのお医者さんだけにしてください。何箇所もいくと先生方同士の悪くしますから。小児科医にみせた方がいいって誰かに言われたんですか？」とビシヤリいわれてしまいました。そこで、かわむら先生から五十嵐先生を紹介して頂ける予定と話すと「私も、お母さんみたいなタイプは五十嵐先生がいいなと思ってました。かわむら先生がおっしゃるなら是非見ていただいでください。かわむら先生素敵なお先生ですよ。」と…先生のお話をした途端、急にアーチルの方がやさしくなりびつくり（笑）またまた先生に助けていただいたね。と旦那としみじみ…。本当に有り難いです。お忙しいとは思ったのですが、どうしても御礼がいたくてメールしてしまいました。良かったですね。小児科は親御さんが困った時の相談窓口でもあるのです。困ったことがあったら何でも相談してください。可能性のある道を探してあげるのも、小児科医の仕事です。



12月の感染症の集計



水痘が先月からかなり増え、溶連菌感染症も少し増加しています。他に特別な流行はありません。グラフには示していませんが、インフルエンザと診断したのは 49 人、むしろ嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）が多く、倍以上みられました。

年賀状 ありがとうございます

今年もたくさんの年賀状を頂き、ありがとうございます。本来は御返事を差し上げるところですが、この場を借りてお礼を申し上げます。

院長・スタッフ一同



1月のお知らせ

・医学部学生実習 1月9日(金) ご協力を

編集後記

年初めから、辛く悲しい話題で申し訳ありません。休日当番では、すぐく嫌な思いをしました。記事にしたかったのですが、紙面が足りません。そんな思いの時に休日当番で、はじめて受診した方から感謝のメールを頂きました。世の中は、みんなで支えあっていることを感じ、捨てたもんじゃないと嬉しい気分です。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『小学校入学前にも麻しん風しん混合ワクチンを』
Ⅲ期（中学1年生相当）、Ⅳ期（高校3年生相当）も忘れずに！